

- 進行・再発癌                     術後補助化学療法                     術前補助化学療法  
 大量化学療法                     局所療法                     その他(                    )

投与順	抗癌剤名(商品名・略号)	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日(d1, d8等)
1	カペシタビン(ゼローダ)	下記参照	経口	1日2回 朝夕食後	d1夜～d15朝
2	シスプラチン(シスプラチン・CDDP)	80mg/m <sup>2</sup>	div	2時間	d1
4					

1コース期間 (次コースまでの標準期間)	3週間(ゼローダは2投1休)
総コース数	効果判定がPDまでくり返す
コース間での休薬の規定	G3以上の血液毒性発現時は、回復するまで延期

減量規定・中止基準	G3以上の血液毒性の発現時
投与量の増量規定	なし
投与期間の短縮規定	なし
コースによる変化	なし
1日の中での抗癌剤投与順	なし
プレメディケーション・ポストメディケーション	プレメディケーション グラニセトロン、デキサメタゾン、アプレピタント

患者条件

- ・PS 0～2
- ・主要臓器が保たれている患者

除外規定

- ・PS 3以上
- ・骨髄機能低下の著しい患者
- ・重篤な腎障害のある患者
- ・重篤な感染症を合併している患者
- ・白金を含む薬剤に対し、重篤な過敏症の既往歴のある患者
- ・フルオロウラシルに対し過敏症の既往歴のある患者

実施上の注意点

- ・ゼローダの投与量: 体表面積1.36m<sup>2</sup>未満は1回1200mg、体表面積1.36m<sup>2</sup>以上1.66m<sup>2</sup>未満は1回1500mg、体表面積1.66m<sup>2</sup>以上1.96m<sup>2</sup>未満は1回1800mg、体表面積1.96m<sup>2</sup>以上は2100mg。1日2回朝夕食後に服用。
- ・ゼローダはテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中及び投与中止後7日以内は投与しないこと。
- ・シスプラチン投与前後に十分な水分負荷を行う、投与中は尿量確保に注意し、必要に応じ利尿剤の投与を行う。
- ・シスプラチンの総投与量が500mg/m<sup>2</sup>を超える場合は、蓄積性の神経毒性に配慮すること。

ゼローダの減量時1回投与量

体表面積	1回投与量		
	初回投与量	減量段階 1	減量段階 2
1.36m <sup>2</sup> 未満	1200mg	900mg	600mg
1.36m <sup>2</sup> 以上1.41m <sup>2</sup> 未満	1500mg		
1.41m <sup>2</sup> 以上1.51m <sup>2</sup> 未満		1800mg	1200mg
1.51m <sup>2</sup> 以上1.66m <sup>2</sup> 未満			
1.66m <sup>2</sup> 以上1.81m <sup>2</sup> 未満	2100mg	1500mg	900mg
1.81m <sup>2</sup> 以上1.96m <sup>2</sup> 未満			
1.96m <sup>2</sup> 以上2.11m <sup>2</sup> 未満	2100mg	1500mg	1200mg
2.11m <sup>2</sup> 以上			